

第2回学校運営協議会 記録

- 1 日 時 令和5年11月28日(火)18:00-19:10
- 2 会 場 北海道登別青嶺高等学校会議室
- 3 出席者 吹田一洋(委員長)、工藤保秋、斎藤正史、菅田浩之、田渕純勝、田村薫、
田村忠士、野崎均、次原勝秀、福井誠、藤江紀彦(以上11名)
坪井克彦(校長)、本間淳(事務長)、福田敦(教頭)、金森禎一(教諭)
(欠席:なし) 以上、敬称略

4 内 容

(1) キャリア部会から

「進路意識の醸成のためにどのような教育ができるか」

じもと学の取組は、大人や社会とのふれあいの中で、キャリア意識の醸成に大きくつながっていると思う。また、仕事の体験・姿・話で仕事に対する誇りや仕事に取り組む姿勢など学ぶことができる良い取組と思う。

多くの学校において職業講話が実施されている。事業所の代表が来校して生徒に対して事業内容の説明をすること、これも有意義なものだが、例えば最近卒業した先輩が来校して、先輩の話を聞くなどの機会があるとよい。自分たちよりも少し年が上な方が来て、こんな仕事をしているんだとか、なぜこのような仕事を目指したか話してもらうなどすると、そういった中で生徒にとってのキャリア意識の目覚めがあると考えられる。

また、親の仕事は、子どもにとって一番のキャリア教育である。親の仕事を見たり、中学校で実施しているように親の仕事のインタビューするなどして、親の仕事からキャリア意識を醸成することができると考えられる。

他にも、できるだけ大人との対話の機会や大人との共同作業の機会を設けて、その中でキャリア意識を持たせるというようなことも、大変有意義なものになると思う。

(2) 地域部会から

「地域資源を活用した教育の具体的な提案」

現行の取組をどのようにして学校全体に波及させるかを協議した。

若者が自分の地域のことを何も知らない、ということは、例えば自分の住む地域が変わったときなどに急に実感するもの。自分の生まれ育った地域を知る取り組みが必要と思う。

例えば水産業は、単に漁獲だけでなく漁場を育てるなど、多面的な業種である。こういったことを体験するなどすると、生徒にとっては地域に対する深い理解につながると思う。

また、現在、一部の部活動を中学校・高校で一緒に行うなどして、互いに有益なものにしているが、これは中学校・高校それぞれで行っている既存の取組を組み合わせたものである。このような「足し算」的なことは、その他にも可能性があるのではないかと。学校全体の取組や「じもと学」での取組にも生かせる考え方と思う。

他にも、福祉方面について、学校全体ですることも大きな意味があると思う。高齢化が進む世の中なので、例えば社会福祉協議会の「絆」という実践計画(地域福祉計画)に沿って協力するなど考えられると思う。

現在は少子化の時代と言われるようになって久しく、それぞれの学校が魅力化に力を入れているところと思うが、じもと学をはじめとする様々な取組は、青嶺高校の魅力発信、PRとしても非常に良いと思う。今後も期待する。